

株式会社サンワ

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

発行日：2024年3月28日

発行者：株式会社群馬銀行

コンサルティング営業部

群馬銀行は、株式会社サンワ（以下、「サンワ」）に対してポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト/ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、群馬銀行が独自に開発した評価体系に基づいている。

目次

1. 企業概要	3
(1) 企業概要	
(2) 沿革	
(3) 社是・企業理念・環境方針	
(4) 事業概要	
(5) サステナビリティ	
(6) SDGs への理解と取組み	
(7) 経営ビジョン	
2. 外部環境	11
3. 内部環境	13
4. サンワの包括的分析	14
(1) 業種別インパクトの状況	
(2) サンワの事業に関する PI 及び NI	
(3) バリューチェーンにかかるインパクト分析	
5. 本ポジティブ・インパクト・ファイナンスにおける KPI の設定	17
(1) サンワ GX ビジョンに基づくカーボンニュートラルの実現	
(2) ワークライフバランスの充実による企業価値向上	
(3) DX 化推進による顧客の安全性向上	
(4) 事業活動を通じた地域レジリエンスへの貢献	
6. 事業活動領域におけるインパクトニーズとの関連性	39
7. 群馬銀行との方向性	40
8. KPI で設定したインパクトの種類	41
9. インパクトのモニタリング	42
(1) サンワにおけるインパクトの管理体制	
(2) 群馬銀行によるモニタリング	

1. 企業概要

(1) 企業概要

企業名	株式会社 サンワ
代表者名	遠藤 宗司
本社	群馬県前橋市元総社町 521-7
創業	1946（昭和 21）年 2 月 11 日
資本金	30 百万円
従業員数	506 名（2023 年 6 月時点）
売上高	163 億円（2023 年 6 月期）
主な事業内容	石油製品の卸売販売、ガソリンスタンドの運営、自動車メンテナンス、太陽光発電システム等環境配慮型商品の販売、ガス・電気設備等工事、保険代理店、スウィーツファクトリーの運営、ほか
国内拠点	営業所 5 カ所、ホームエネルギーショップ 7 店舗、サービスステーション（以下、SS）20 店舗、キーパープロショップ 5 店舗、車検センター 3 カ所、配送センター 3 カ所、社員研修館 1 カ所、保養所 1 カ所 ほか
主要取引先 （五十音順）	アストモスエネルギー株式会社、出光興産株式会社、GN ホールディングス株式会社、住友三井オートサービス株式会社 ほか
関連会社	大泉石油株式会社、有限会社埼玉三和、株式会社ミワックス ほか

(2) 沿革

サンワは、1946 年（昭和 21 年）に自動車部品の販売を目的に群馬県沼田市で播磨産業として設立された。その後、石油製品、LP ガス、太陽光発電など事業の多角化を進めた。『脚下照顧 原点より飛躍』 創業者遠藤又司が社訓として残したこの言葉に、「原点である社業を常に見直し、新しい時代へチャレンジしていく。」というサンワの精神が受け継がれ、業容を拡大してきた。

サンワの沿革は以下の通りである。

1946年	2月11日創業者・遠藤又司が群馬県沼田市材木町に播磨産業を設立
1954年	出光興産株式会社と特約店契約を結び、石油製品販売を開始。 「三和石油株式会社」として正式に登記。のちに、社名を「群馬自動車工業株式会社」へ社名変更
1955年	群馬県沼田市西原新町で給油所1号店を開設
1959年	家庭燃料の変化に対応し、LPガスを本格的に販売開始
1961年	LPガス前橋営業所を開設し、小売へと業務拡大 充填施設を併設したLPガス吉岡営業所を開設 LPガス卸売部門で東毛地区に進出
1962年	群馬経済連（現JA全農ぐんま）のLPガス供給ディーラーになる
1963年	「三和商事株式会社」へ社名変更。総合商社へ
1964年	LPガス太田営業所を開設。LPガス小売部門で東毛地区へ進出
1966年	本社を群馬県前橋市江田町へ移転
1967年	LPガス販売店会「三和会」発足
1970年	石油販売店会「三友会」発足
1973年	群馬県沼田市に石油配送センター開設
1974年	群馬県伊勢崎市に石油配送センター開設
1982年	売上高100億円を突破
1986年	本社ビル完成に伴い、群馬県前橋市元総社町に本社移転
1988年	LPガス邑楽営業所、最新鋭のLPガス自動充填システム導入
1990年	「SANWA アメニティパーク in MAEBASHI」を開催
1992年	群馬県吾妻郡高山村に研修施設「パワジオ倶楽部 高山」オープン
1993年	「株式会社サンワ」に社名変更
1996年	創業50周年記念誌「あゆみ」を発刊 ガーデニングショップ「パワジオ倶楽部・前橋」をオープン
1998年	「セーフティライフ24」を開設し、LPガスの保安の確保を確立
1999年	「有限会社ミワックスサンワ」を設立し、フード事業に参入
2002年	「快適な暮らしのフェア」開催 「美しいふるさと基金」創設、自然保護活動をサポート
2003年	「ザスパクサツ群馬」のメインオフィシャルパートナー就任
2004年	ISO14001（環境マネジメントシステム）認証取得
2005年	高崎スイーツファクトリー（現スイーツファクトリー高崎）稼働
2006年	プライバシーマークを認証取得

2009年	「サンワ eco パーク 2009」を開催 太陽光発電システムの販売開始
2010年	サンワレンタカー事業開始
2013年	災害対応型拠点 12 カ所を国から指定を受ける。同時に BCP の一環として安否確認システムを導入
2014年	「パラダ前橋インターSS」に北関東初となる「アポロハット」を導入
2016年	「ホームガスショップ」を「ホームエネルギーショップ」へ名称変更 「ホームエネルギーショップ片品」にてシニア向けサービス「サンワ生活応援プラン」を開始 インターネット回線サービス「サンワ光」提供開始 東京電力エナジーパートナー株式会社と提携し、電気の取扱いを開始
2018年	ザスパクサツ群馬のオフィシャルユニフォームパートナーに就任
2019年	広瀬川サンワパーキング（市営パーク城東）のネーミングライツを取得 スイーツファクトリー高崎にて、国際規格の食品安全マネジメントシステム（FSSC22000）を認証取得
2020年	カーライフ部にてお客様向けアプリ配信開始
2021年	群馬県沼田市でサンワ沼田武道館のネーミングライツ取得 「群馬県いきいき G カンパニー（ゴールド認証）」を取得
2022年	「サンワ GX ビジョン 2046」を発表。カーボンニュートラルに向けた取組み開始 カーボンニュートラル LP ガス受入、販売開始
2023年	SDGs 宣言書を策定 群馬県の「県有林整備パートナー事業」に参加 経済産業省が公表した「GX リーグ」に参画 群馬県が発行する「グリーンボンド」（群馬県公募公債）へ投資 エバーグリーン・リテイリング株式会社と提携し CO2 フリー電気の取扱いを開始 出光カーボンオフセット fuel 販売開始
2024年	健康経営優良法人 2024（中小規模法人部門）の認定

(3) 社是・企業理念・環境方針

サンワは、社是、企業理念、環境方針を定めている。創業以来、サンワは顧客のより快適な暮らしを提案する生活エナジー提案企業として、エネルギー事業を中心にサービスを提供している。加えて、サービス提供における環境負荷に対しても意識を向けて、持続可能な事業活動を目指している。

また、サンワでは 2022 年度をカーボンニュートラル元年と位置付け、創業 100 年である 2046 年にサンワの事業・経営・お客様の分野においてカーボンニュートラルを実現しようとする「サンワ GX ビジョン 2046」を発表した。

サンワはお客様と地域の毎日に安心、安全と共に、環境価値という新たな価値を提供し、未来にも安心して暮らせる社会の実現に向けて取り組んでいる。

社是	<p>「三和主義」 お客様、社員、経営者の三つの和。三者それぞれに利益をもたらすことができ、初めて企業の価値がある。</p>
企業理念	<p>私たちは、すべてのお客様に対し、「安心」・「安全」はもとより、「エコで快適な暮らし」を提供することで、お客様の繁栄と地域社会の発展に貢献します。</p>
環境方針	<p>環境理念：地球環境や自然保護の大切さを認識し、省資源と省エネルギーを追求し、カーボンニュートラルに努めていくことがエネルギー供給の一翼をになう者の責務であると考えます。サンワの企業理念を実現するために、全ての事業活動において地球環境保護に配慮し、持続可能な社会の実現に努めます。</p> <p>環境方針：販売活動においては、カーボンニュートラルにお役立ちできる商品販売に努めます。また、事業活動においては、グリーン購入を中心とする環境負荷の少ない物品の購入、効率的かつ環境価値の高いエネルギーの使用、廃棄物の削減等、持続可能な資源の利用に努めます。</p> <p>全ての事業活動が環境に与える影響を的確に捉え、環境目標を定め定期的な見直しを行い、環境マネジメントと環境パフォーマンスの継続的改善に努めます。事業活動に関連する環境の法規制、該当する地方自治体の条例及び同意するその他の要求事項を順守し、環境負荷の低減及び汚染の予防に努めます。環境保護に関する業界活動及び地域活動に積極的に参画し、地域社会との調和の向上に努めます。環境方針は、全従業員に周知すると共に、</p>

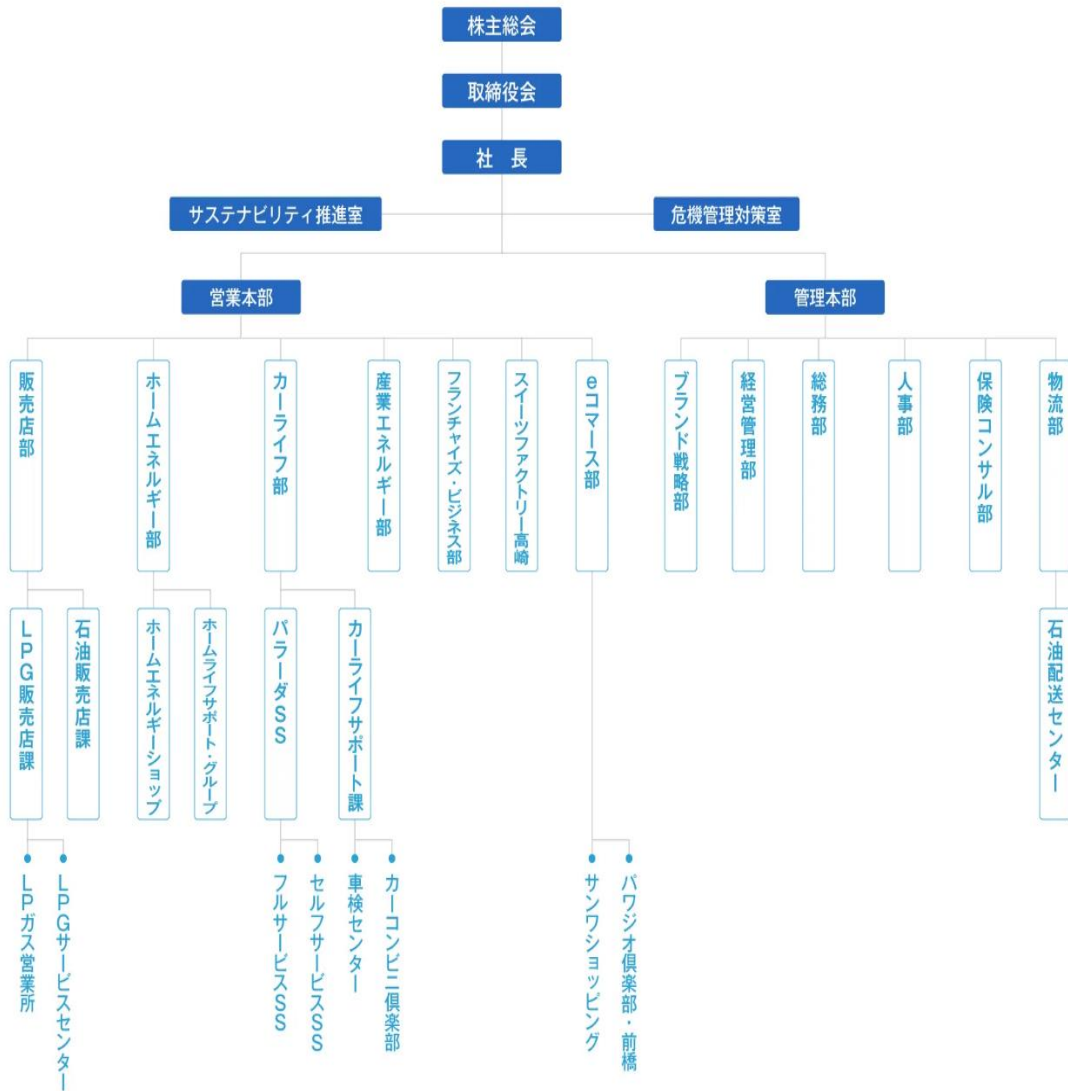
	社外の求めに応じて一般公開します。 制定日：2003年11月1日 改訂日：2022年07月1日
--	---

【出所 サンワ HP より引用】

(4) 事業概要

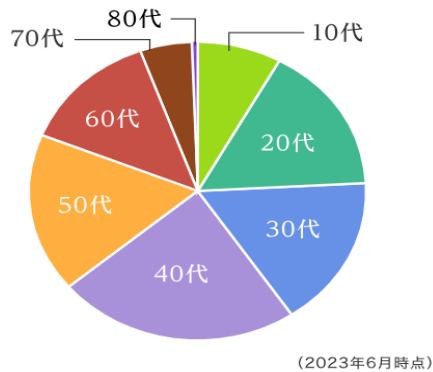
サンワは、群馬県前橋市に本社を構え、群馬県と埼玉県を商圏として事業を行っている。事業領域は多岐にわたり、専門店による自動車用燃料小売販売事業、ガス小売及び卸売事業、自動車関連部品の販売事業、自動車メンテナンス事業、太陽光発電システム・蓄電池・LED販売事業、ガス・電気等設備工事事業、リフォーム事業、保険代理店事業、家電製品販売事業、電気通信事業、フード事業等を営んでいる。なお、サンワは、それぞれの事業をセグメント分けしており、分類は下図の通りになっている。

<サンワの組織図>

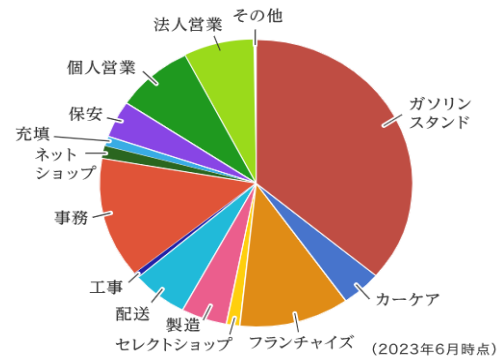


【出所 サンワ HP より引用】

<サンワ従業員年代別割合>



<サンワ職種別割合>



【出所 サンワ HP より引用】

(5) サステナビリティ

サンワのサステナビリティの取組みに関する状況や実績は、ウェブサイト等の各種媒体を通じて確認することができる。社会・環境・経済に関する取組みの成果について、各種媒体を通じて開示しており、ステークホルダーからも容易にモニタリングが可能な状況となっている。

(6) SDGs への理解と取組み

サンワは、積極的に SDGs を理解し取組みを進めてきた。SDGs の達成に向けて、社内外に好循環を生み出す取組みを推進するため、2023 年に SDGs 宣言書を策定した。以下はサンワ HP にて掲載されている SDGs 宣言書である。



SDGs宣言書

株式会社 サンワ

2023年2月11日

当社は、SDGsの達成に向けて、後述の取組を含む社内外に好循環を生み出す取組を推進し、PDCA（計画-実行-評価-改善）サイクルに沿った継続的な取組およびその改善を、ここに宣言します。

1 環境保全への取組



- カーボンニュートラルLPガスの販売および自社活用を通じ温室効果ガス排出量の削減を進め、地球環境の保全に努めます。

2 地域レジリエンスへの対応



- 当社が運営する中核充てん所や中核SSを活用し、大規模災害発生時の社会活動維持に向けたエネルギーの安定供給に備えます。

3 多様な人材の活躍促進



- 働きやすい職場環境づくり推進企業として、育児・介護と仕事の両立、職場における女性の活躍促進、従業員のワーク・ライフ・バランスの推進に積極的に取り組みます。

4 地域社会への貢献



- 「美しいふるさと基金」への寄付を通じ自然環境の保全を支援します。
- 地元スポーツチームへの協賛を通じてスポーツ文化を育み、地域の活性化に努めます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」のことです。17の目標と169のターゲットから構成されており、2030年の達成に向けて国・企業・個人など様々なレベルでの取組みが求められています。

【出所 サンワより提供】

(7) 経営ビジョン

サンワは、創業 100 年にあたる 2046 年に向けて、「お客様」「経営」「事業」の 3 つの分野で「CO2 ゼロ」という目標を設定している。これは、国が掲げる「2050 年カーボンニュートラル」を 4 年前倒しで達成する計画であり、十分野心的な目標と言える。

この目標を達成するための各種取組みは後述の目標・KPI でも触れており、全社を挙げて目標達成に向けて推進していく計画である。



SUNWA GX VISION 2046

CO₂ ゼロへの挑戦から、地域に新しい明日を。

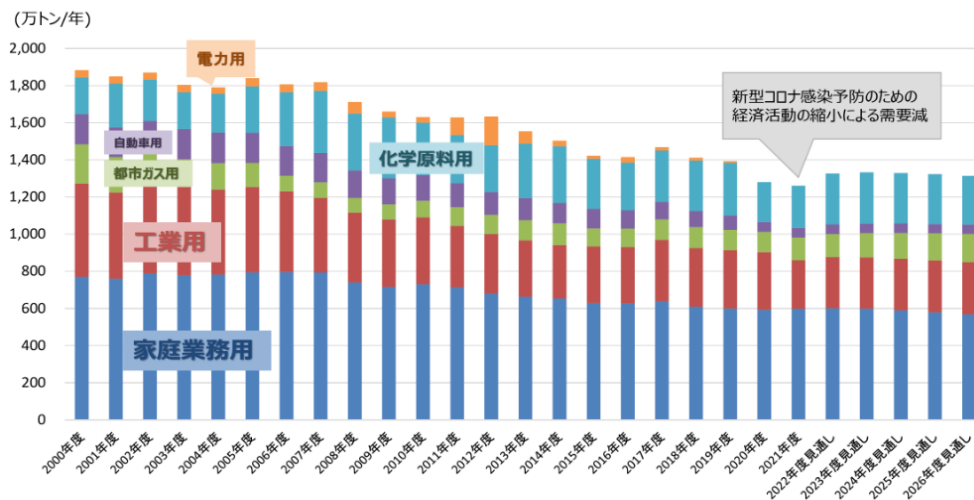
【出所 サンワより提供】

2. 外部環境

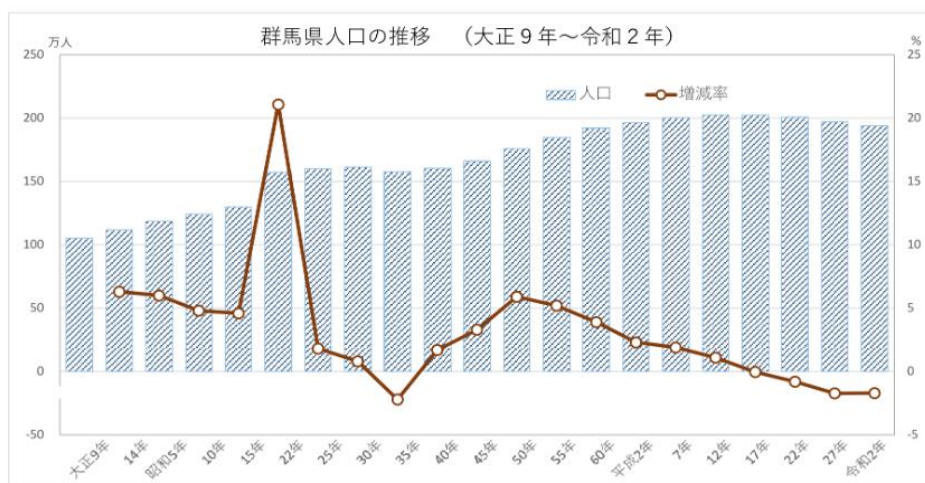
OLP ガス業界の国内需要の推移と見通し

LP ガスは石油や天然ガス等の化石エネルギーの中で相対的に二酸化炭素排出量が少なく、燃焼時の排出ガスも極めてクリーンなエネルギーとして、地球温暖化対策の重要なエネルギー源として期待されている。

LP ガスの国内需要は 2000 年度の 1,908 万トン以降、漸減傾向にある。2023 年度は約 1,294 万トンの見通しである。LP ガスの国内需要は、LP ガス利用が多い地方での人口減少や給湯機等のガス機器の省エネ化、オール電化住宅の普及等の要因により減少してきた。近年は、コロナ禍での経済活動の縮小により、コロナ前の 1 割程度の需要減となった。今後、徐々に需要が戻るが、コロナ前の 1,400 万トンの水準までは戻らず、1,300 万トン程度で推移する見通しである。



【出所 LP ガス国内需要 資源エネルギー庁作成資料より引用】



【出所 群馬県統計資料より引用】

OLP ガス業界の取組みと今後の環境変化

LP ガスは可搬性、貯蔵の容易性の利点から、約 4 割の家庭に供給されるなど全国的な供給体制が構築されている。また、自家発電設備等を備えた中核充てん所の新設や設備強化、避難所・病院等の重要施設における燃料備蓄強化により、緊急時に供給を維持できる備蓄体制の整備も進められている。

カーボンニュートラルに向けた LP 業界の取組みとして、①重油から CO2 排出量の少ないガスへの燃料転換の促進、②CO2 排出量が少ない省エネのガス機器の普及（高効率ガス給湯機、家庭用燃料電池の普及）、③配送の合理化（スマートメーター/集中監視装置の導入による過剰な配送頻度を減少、他社とのポンベの共同配送による配送距離の短縮化）、④カーボンニュートラル LP ガスの販売（CO2 排出権を付与した LP ガスの販売により、ガス利用による CO2 排出量を相殺）、⑤グリーン LP ガスの研究開発（水素と一酸化炭素から人工合成した LP ガス）を挙げている。

また、「液化石油ガス安全高度化計画 2030」においては、今後 10 年間に想定される環境変化として、①「過疎化・高齢化」：人口減による LP ガスの需要縮小や過疎化による供給困難地域の拡大、②「人手不足、外国人の増加」：働き手不足による保安の現場を担う人手不足、外国人利用者に対する配慮、③「新たなデジタル技術の導入に伴う変化」：スマートメーターやデジタル技術を活用した保安の仕組みの導入、④「自然災害の多発化、甚大化」：大規模地震や水害等における二次被害対策、災害発生後の早期復旧・復興、顧客情報等の情報保全、⑤「感染症対策」：人と人との接触機会を減らした保安確保を挙げている。

これらを踏まえ、サンワでは前述の「サンワ GX ビジョン 2046」や「SDGs 宣言」の中で、サンワの取組みとして以下の 4 点で整理している。

まず、①エネルギー業界における脱炭素である。サンワは、脱炭素は地球規模の喫緊の課題であると認識している。その取組みとして、カーボンニュートラル LP ガスの利用や販売等を通じて、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいる。





次に、②地域レジリエンスへの対応である。サンワは、近年の大規模災害発生に備えた中核充てん所や中核 SS の整備を通じて、社会活動維持に向けたエネルギーの安定供給に努めている。

そして、③多様な人材の活躍促進である。研修制度の整備、資格取得の奨励、DX 化等を通じて、ワークライフバランスの推進に積極的に取り組むとともに、育児・介護と仕事の両立、職場における女性活躍を推進している。

最後に、④地域社会への貢献である。公共施設に対するネーミングライツの取得や地元スポーツチームへの協賛等を通じて地域の活性化に貢献している。

○日本 LP ガス業界が目指す SDGs の目標

日本 LP ガス協会では、「LP ガスが果たす SDGs への取り組み」として、LP ガス業界が貢献可能な目標を以下の 4 点に整理している。

項目	SDGs ゴール
盤石な安定供給体制とサプライチェーン	
最先端技術による高付加価値サービスの創造	
分散型エネルギーによる高い災害対応力	
低炭素・脱炭素化を目指した新たな方策	

この中で、有事に備えて LP ガスの備蓄や電源車の配備、安定供給を確保するための地域間連携、訓練の実施などを盛り込んでいるほか（ゴール 7）、安全機器の普及や保安の確保に努めることで消費者事故を抑制、情報通信技術の活用による顧客サービスの向上と保安・物流の進化（ゴール 9）、LP ガス災害バルク設置など災害時対応能力の強化、GHP（ガスヒートポンプ）導入で学校施設の空調化推進（ゴール 11）、LP ガス燃料船の導入、LP ガスの優れた環境性能を生かした新たなイノベーションの構築（ゴール 13）などを将来的な方向性として示している。

3. 内部環境

サンワは、群馬県中心に 55 拠点を有している。また、エネルギー事業中心に 11 の事業を展開し、事業の多角化が図られており、今後の市場変化に備えた事業活動を行っている。

4. サンワの包括的分析

(1) 業種別インパクトの状況

PIF原則に基づき、所定のインパクト評価の手続きを実施した。

まず、UNEP FIの定めたインパクト評価ツールを用い、ポジティブインパクト（以下、「PI」）及びネガティブインパクト（以下、「NI」）が発現するインパクトカテゴリーとして、「自然災害」、「健康及び安全性」、「エネルギー」、「雇用」、「零細・中小企業の繁栄」、「インフラ」、「気候の安定性」、「資源強度」、「廃棄物」を確認している。各事業の所在地は国内であり、事業別にUNEP分析ツールによりポジティブ、ネガティブな項目を判定したものが以下になる。

【UNEP FIの定めたインパクト評価ツールにより確認したインパクト一覧】

国際産業標準分類			個別要因を加味したインパクト		4730 専門店による自動車燃料小売業		4661 固体・液体・ガス燃料及び関連製品卸売業		4530 自動車部品・付属品販売業		4321 電気設備工事業		4322 配管・暖房・空調設備工事		
大分類	インパクトエリア	インパクトカテゴリー	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	
社会	人格と人の安全保障	紛争													
		現代奴隷										★★		★★	
		児童労働													
		データプライバシー													
		自然災害	★★									★★		★★	
	健康および安全性	—		★		★		★		★		★★		★	★★
		水													★★
	資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質	食糧													
		エネルギー	★			★			★			★★			
		住居	★									★★			★★
		健康と衛生													★
		教育													
		移動手段					★				★★				
		情報													
		コネクティビティ											★		
		文化と伝統													
		ファイナンス													
	生計	雇用	★	★		★			★		★		★		★
		賃金	★			★			★		★		★	★★	★
		社会的保護					★		★		★		★		★
平等と正義	ジェンダー平等									★		★		★	
	民族・人権平等											★★		★★	
	年齢差別														
	その他の社会的弱者											★★		★★	
社会経済	強固な制度・平和・安定	市民的自由													
		法の支配													
	健全な経済	セクターの多様性													
		零細・中小企業の繁栄	★			★★			★		★		★		★
インフラ	—	★					★				★★		★★		
経済収束	—														
自然環境	気候の安定性	—	★	★		★	★			★		★★		★★	
	生物多様性と生態系	水域													★
		大気													
		土壌											★★		★★
		生物種											★★		★★
		生息地											★★		★★
	サーキュラリティ	資源強度									★		★★		★★
廃棄物										★		★★		★★	

「★★」：重要な影響があるカテゴリ、「★」：影響があるカテゴリ

(2) サンワの事業に関連するPI及びNI

サンワの事業は、石油製品、LPガス等のエネルギー製品の販売が主であり、いずれも国内を市場としている。

「現代奴隷 (NI)」に関しては、サンワの事業は日本国内を対象としており発展途上国との取引がないことなどから直接関係ないため削除した。

「自然災害 (PI、NI)」に関しては、サンワの事業による土地利用などで災害リスクを増す懸念は特段ない。一方で、後述のようにサンワのSSが災害時の拠点として機能することでPIの発現を目指す。

「健康及び安全性 (NI)」に関しては、労働環境によっては従業員の健康を害するネガティブインパクトの懸念がある。

「水 (PI)」に関しては、水に関する事業を直接行っていないため削除した。

「エネルギー (PI)」に関しては、サンワの提供する電気設備工事によって、法人・個人のエネルギーへのアクセスに貢献するというPIがある。

「住居 (PI)」に関しては、サンワのLPガスなどの供給が地域住民の住環境に貢献するというPIがある。

「健康と衛生 (PI)」に関しては、衛生管理に資するサービスは展開していないため削除した。

「移動手段 (PI)」に関しては、個人に移動に関するサービスの提供は直接行っていないため削除した。

「雇用 (PI、NI)」、「賃金 (PI、NI)」に関しては、地域の雇用や生計の創出、従業員の資格取得奨励等の取組みを通じてPIの発現を目指す。

「文化と伝統 (NI)」、「社会的保護 (NI)」に関しては、文化財の保護や破壊、非正規雇用に対するNIの懸念はない。「民族・人権平等 (NI)」、「その他社会的弱者 (NI)」についても同様である。

「零細・中小企業の繁栄 (PI)」に関しては、販売店組織「サンワ会」を通じて、販売強化、脱炭素や安全高度化を目指すというPIがある。

「インフラ (PI)」に関しては、中核充てん所の整備等を通じて災害対応に貢献するというPIがある。

「気候の安定性 (PI、NI)」に関しては、サンワGXビジョンに基づく各種取組みを通じてPIの発現を目指す。

「大気 (NI)」、「土壌 (NI)」、「生物種 (NI)」、「生息地 (NI)」に関しては、生物多様性や生態系の保全に悪影響を与える取組みを行っていないため削除した。

「資源強度 (NI)」に関してはサンワが実施する工事に伴い多量のエネルギーが消費されるというNIがある。

「廃棄物 (NI)」に関しては、PCB廃棄物等の適切な処理を行うことで抑制に取り組んでいる。

(3) バリューチェーンにかかるインパクト分析

サンワは石油精製品、LP ガスの卸売、小売事業中心である。出光興産株式会社とは、特約店として長年の取引実績を有している。また、業種柄、自動車部品等の製造業とも関連性が高い。従って、川上のインパクトマッピングとして国際標準産業分類にて「精製石油製品製造業（1920）」、「自動車部品及び付属品製造業（2930）」を特定した。

なお、川下については、エンドユーザーが中心のため、本分析の対象外とした。


国際産業標準分類			1920		2930	
大分類	インパクトエリア	インパクトカテゴリ	PI	NI	PI	NI
社会	人格と人の安全保障	紛争				
		現代奴隷				
		児童労働				
		データプライバシー				
	健康および安全性	自然災害				
		—		★		★
	資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質	水				
		食糧				
		エネルギー	★★			
		住居				
		健康と衛生				
		教育				
		移動手段	★		★	★
		情報				
		コネクティビティ				
		文化と伝統				
	ファイナンス					
	生計	雇用	★		★	
賃金		★	★★	★	★★	
社会的保護			★		★	
ジェンダー平等						
平等と正義	民族・人権平等					
	年齢差別					
	その他の社会的弱者					
	—					
社会経済	強固な制度・平和・安定	市民的自由				
		法の支配				
	健全な経済	セクターの多様性				
		零細・中小企業の繁栄			★	
	インフラ	—	★			
	経済収束	—				
自然環境	気候の安定性	—		★★		★★
	生物多様性と生態系	水域		★★		★
		大気		★★		★
		土壌				
		生物種				
		生息地				
	サーキュラリティ	資源強度		★★		★★
		廃棄物		★		★

サンワが仕入れる精製石油製品や自動車部品の製造過程において、温室効果ガスの排出、有限な化石燃料、エネルギーの利用などで「気候の安定性」、「大気」、「資源強度」のNIが想定される。また、精製石油製品の代替エネルギーとなりうる再生可能エネルギーの拡大などで「エネルギー」のPIが想定される。

5. 本ポジティブ・インパクト・ファイナンスにおける KPI の決定

以下より特定したポジティブインパクトとネガティブインパクトの内容を記載する。

(1) サンワ GX ビジョンに基づくカーボンニュートラルの実現

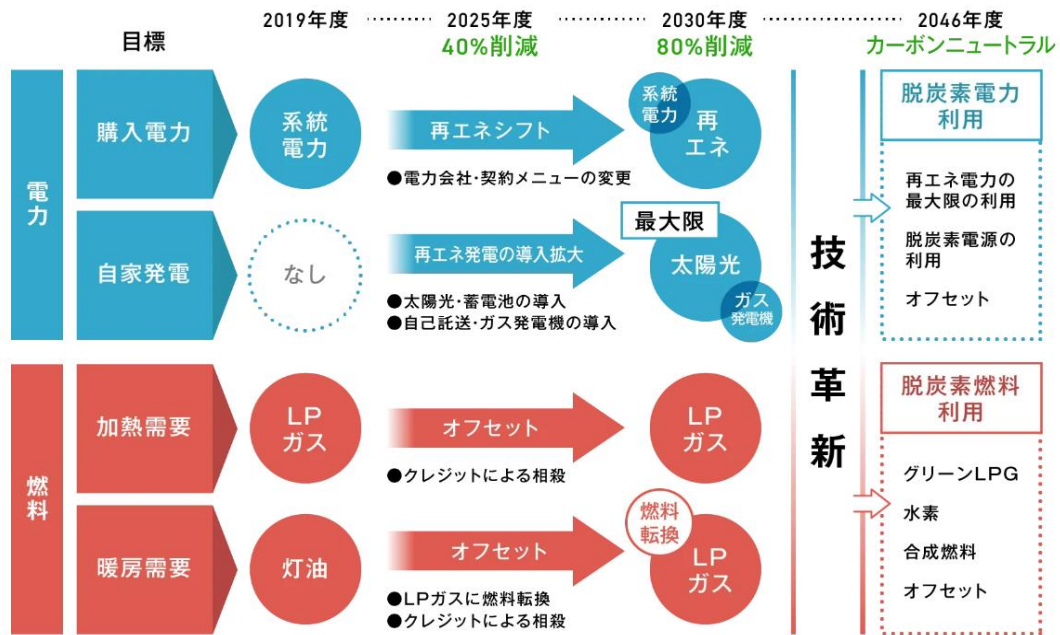
項目	内容
インパクトの種類	環境的側面においてネガティブインパクトの緩和
インパクトカテゴリー	「気候の安定性」
影響を与える SDGs 目標	
関連する SDGs ターゲット	13.3
主な取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶カーボンニュートラル LP ガスの販売及び利用 ▶出光カーボンオフセット fuel（カーボンクレジットを付与させた燃料油）の販売 ▶営業所屋根等への太陽光発電システムの設置 ▶GX リーグへの参画による CO2 排出量の可視化 ▶再エネ由来の電気への切替え ▶カーボンオフセット灯油への切替え ▶群馬県起債のグリーンボンドへの投資
目標と KPI	<ul style="list-style-type: none"> ▶2030 年度までに Scope1、2 の温室効果ガス排出量を 2019 年度比 80%実質削減する。 ▶ISO14001 の認証取得を継続する。 ▶サンワオープンセミナー（LP ガスのクレジット活用によるカーボンオフセットや燃転事例等を紹介）を毎年 1 回開催継続する。

サンワは「サンワ GX ビジョン」に基づき 2046 年カーボンニュートラル実現に向けて以下の取組みを行っている。この取組は UNEP FI のインパクトレーダーでは「気候の安定性」に該当し、SDGs の 17 目標 169 ターゲットでは「13.3」のゴールに貢献すると考えられる。

○サンワ GX ビジョンに基づくトランジション戦略

サンワは以下のトランジション戦略を実行することで、サンワのCO2 排出量を 2025 年度に 2019 年度比 40%、30 年度には同 80%、46 年度に 100%の實質削減（カーボンニュートラル）を目標として掲げている。

自社のCO₂排出量削減、カーボンニュートラルに向けた取り組み



【出所 サンワ HP より引用】

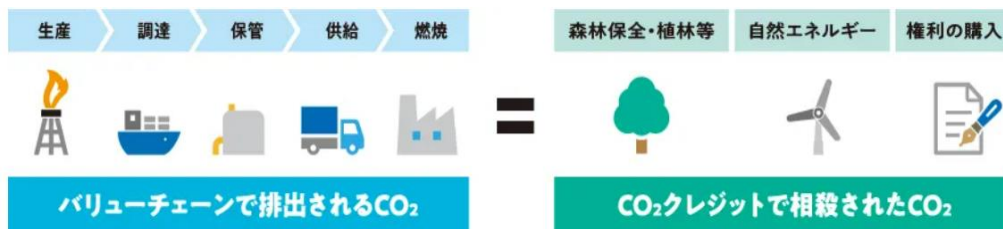
○カーボンニュートラルLPガス（以下「CN-LPガス」）の導入

CN-LPガスとは、LPガスの採掘～燃焼工程で発生する温室効果ガスを世界各国での環境保全プロジェクトによって創出されたCO2クレジットで相殺（カーボンオフセット）し、LPガス使用によるCO2排出量を實質ゼロにすることが可能なLPガスである。

サンワでは、2022年6月よりアストモスエネジーからCN-LPガスを受入れることを決めた。受入れたCN-LPガスのうち、年間54トンは、サンワ本社や各拠点事務所で給湯・空調使用、通常のLPガス使用時と比較して年間約178トンのCO2排出量削減が可能となる。また、2022年11月には、ユーザー向けに群馬県内で初めて納入契約を締結した。



【出所 サンワ HP より引用】



【カーボンオフセットイメージ図】

○太陽光発電への取組み

サンワは、営業所屋根への太陽光発電システムの設置等を通じて、クリーンエネルギーを供給している。

<サンワ 邑楽営業所太陽光>



【出所 サンワ HP より引用】

○ISO14001 取得の継続

サンワは、2004年より ISO14001 規格を取得継続している。事業活動、製品、サービスによる環境負荷や環境リスクを低減し、発生を予防するための行動を継続的に改善する環境マネジメントシステムを実施している。サンワは今後も ISO14001 の取得を継続する方針である。



【出所 サンワ HP より引用】

○ネット・カーボンマイナス賃貸住宅の実用化に向けた実証実験の開始

サンワは、大和ハウス工業株式会社と大和リビング株式会社とともに、サンワが事業主となる新築賃貸住宅（名称「エコフオート前橋駒形」）において、雨天時でも約10日間の停電に対応可能な、「全天候型3電池連携システム」を搭載した、ネット・カーボンマイナス賃貸住宅の実用化に向けた実証実験を、2023年12月より開始した。近年、気候変動の影響で大型の台風や記録的豪雨など大規模な自然災害が多発し、一次災害や二次災害を見据えた対策が必要とされている。また、2018年9月には、北海道胆振東部地震により、北海道全域におよぶ大規模な停電「ブラックアウト」が発生し、2日間にわたり停電が続いた。そのため、災害時においてライフラインが復旧するまでの間、生活可能な環境を整えるために、再生可能エネルギーの活用や防災に配慮した住宅ニーズが高まっている。そのような中、サンワを含む3社は賃貸住宅の脱炭素および最適なエネルギー設備の運用や、エネルギー制御システムの改善・開発・導入コストの削減を図るため、サンワが主体となる本物件において、2023年12月～2025年12月までの2年間、エネルギー効率などのデータの収集・分析に関する実証実験を開始している。

<実証実験イメージ図>



【出所 大和ハウス工業 HP より引用】

<エコフォート前橋駒形>



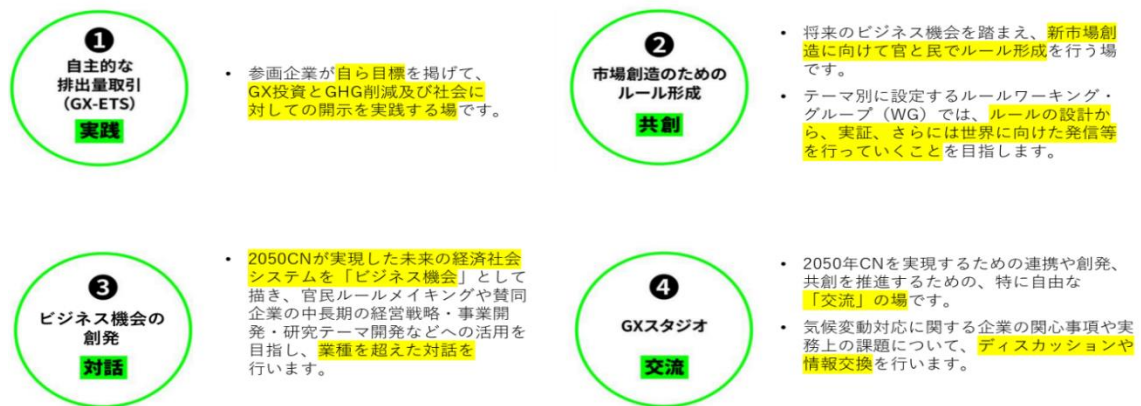
【出所 サンワより提供】

CO2 排出量の可視化と「GX リーグ」への参画

サンワは、2023年5月に経済産業省による「GX リーグ」に参画した。

GX リーグとは、野心的な炭素削減目標を掲げる企業群が、温室効果ガス排出量削減に向けた投資を行いつつ、目標達成に向けた自主的な排出量の取引を行う枠組みである。

サンワでは「GX リーグ」への参画を通じて、2046年の創業100年に向け、気候変動への社会的責任を担う企業として経営戦略にグリーントランスフォーメーションを取り入れ、3つの領域（お客様・事業・経営）において温室効果ガスの実質ゼロを目指す経営ビジョンを掲げ、推進を強化している。



【出所 「GX リーグ活動概要」 GX リーグ HP より引用】

○群馬県グリーンボンドへの投資

サンワは、2023年7月に群馬県が発行するグリーンボンドへの投資を実施した。この投資を通じて、群馬県の持続可能な社会や環境問題解決に向けた取組みを後押ししている。

本債券の発行による調達資金は、群馬県が取り組むSDGs⁽²⁾の達成に資する下表の環境施策に充当されます。

分類	事業内容
再生可能エネルギー	➢ 県有施設における再生可能エネルギー設備導入
エネルギー効率	➢ 県有施設の省エネ化
生物自然資源等の環境持続型管理	➢ 林道整備 ➢ 尾瀬国立公園等の環境整備
気候変動への適応	➢ 河川改修やため池整備等の水害対策 ➢ 土砂災害防止施設（砂防、治山等）の整備 ➢ 無電柱化推進

当社は、本債券を始めとしたESG投資を継続的に実施することで、今後も社会的責任を果たして参ります。

【出所 群馬県 HP より引用】

○サンワの森の整備

サンワは、県有林整備パートナー事業として、群馬県沼田市と川場村に広がる「県立森林公園 21 世紀の森」に隣接する 1.2 ヘクタールの森林を「サンワの森」と名付け、2023 年から 5 年間、県と協働で整備・保全にあたる。また、間伐などの費用として 50 万円を寄付した。



【出所 サンワより提供】

○出光カーボンオフセット fuel の導入

サンワでは、2023 年 10 月より出光興産株式会社が提供するボランタリーカーボンクレジットを付与した「出光カーボンオフセット fuel※」を本社屋の空調燃料として使用を開始した。本社の空調燃料として使用している灯油を「100%オフセット灯油」へ切り替えることで、年間 25 トンの CO2 排出量削減を見込んでいる。

※カーボンクレジットを燃料油（ガソリン、灯油、軽油、A 重油）に付与させた商品であり、燃料油使用による CO2 排出量をカーボンクレジットの削減、吸収効果により相殺（オフセット）できる燃料油。



【出所 サンワ HP より引用】

○サンワオープンセミナーの開催

サンワは、2023年6月に「カーボンニュートラル時代に向けて」と題したオープンセミナーを開催し、LP ガスのクレジット活用によるカーボンオフセットや燃転事例等を紹介した。また、群馬県からカーボンニュートラル実現に向けた取組みなど環境経営に寄与する取組み等についても紹介され、県内の工場関係者や自治体などから約80人が来場した。



【出所 サンワより提供】

(2) ワークライフバランスの充実による企業価値向上

項目	内容
インパクトの種類	社会面においてポジティブインパクトの増大 社会面においてネガティブインパクトの緩和
インパクトカテゴリー	「雇用」
影響を与える SDGs の目標	 
関連する SDGs ターゲット	5.5、8.2、8.5
主な取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶従業員エンゲージメント調査による職場環境づくり ▶DX 推進による業務効率化、ペーパーレス化 ▶スキルアップを目的とした研修制度の整備 ▶成長促進に向けた社員の資格取得奨励 ▶健康経営優良法人の認定
目標と KPI	<ul style="list-style-type: none"> ▶2030 年度までに有給休暇取得率を 75%以上とする（直近実績値 51%） ▶階層別研修を全社員に対して年 2 回以上実施する。 ▶群馬いきいき G カンパニーゴールド認証（育児・介護休業制度の利用促進や職場における女性の活躍促進、従業員の教育等ワークライフバランスの推進に先導的な取組みを進めている群馬県内事業者を認証する制度の最高ランク）の継続。 ▶2025 年度までに電気工事士 1 種、2 種資格を 15 人まで増加させる（現在 7 名）。

サンワは従業員エンゲージメントのため、ワークライフバランスの向上、教育体制拡充、ダイバーシティを推進している。

この取組みは UNEP FI のインパクトレーダーでは「雇用」に該当し、SDGs の 17 目標 169 ターゲットでは「5.5」「8.2」「8.5」のゴールに貢献すると考えられる。

○ワークライフバランス

休日日数の増加を目指す。有給休暇は 2023 年度には平均で 18 日以上付与されており、2022 年の平均有給取得日数 9.2 日となっている。盆や正月といった時期を年休推奨とすることで従業員の休暇取得を後押しし、年間休日数の増加につなげる狙いである。

また、仕事と育児の両立についても積極的に取り組んでおり、2022 年度女性社員の育児取得率は 100%となっている。サンワは、群馬県いきいき Gカンパニー（ゴールド認証）※を認証取得し、育児・介護と仕事の両立、職場における女性の活躍推進、従業員のワークライフバランスの推進等を取り組む県内事業所としても認知されている。今後、DX 化による業務効率化等による生産性を高める取組を行うことで残業時間の削減を図っていく。

※群馬県いきいき Gカンパニーとは、群馬県が育児・介護休業制度の利用促進や職場における女性の活躍促進、従業員の教育等ワークライフバランスの推進に先導的な取り組みを進めている群馬県内事業者を応援し、男性・女性を問わずすべての労働者が働きやすい職場環境づくりを推進するとともに県内事業所の活性化を図り、群馬県経済に活力を与えることを目的として実施している。ゴールド認証は、その最上位のランクの位置付けである。

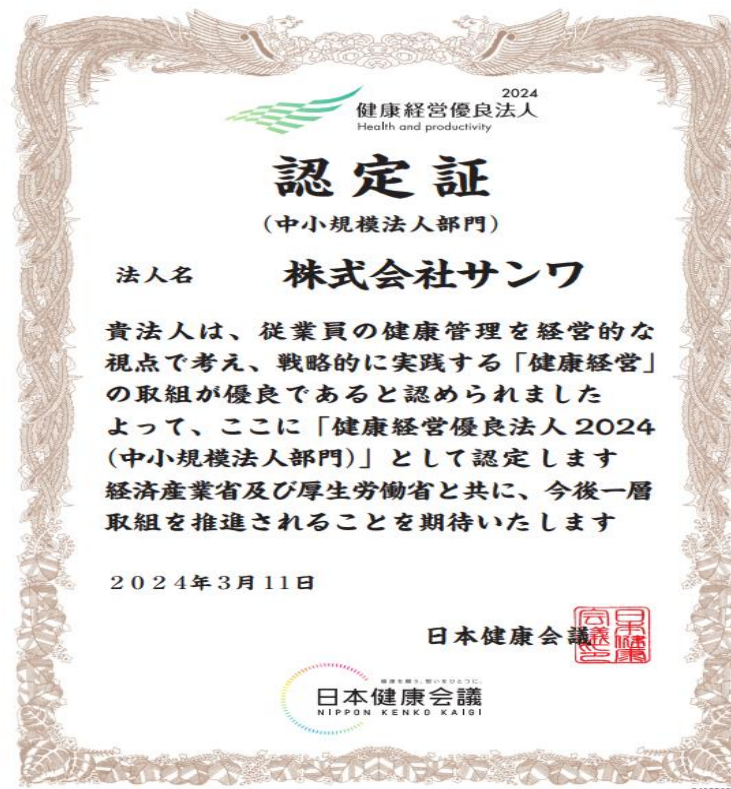


【出所 群馬県HPより引用】

○健康経営優良法人の認定

サンワは、健康管理を経営的な視点から捉えた健康経営の取組みを進めている。その一環として、サンワは2024年3月に日本健康会議より健康経営優良法人※に認定された。健康経営優良法人とは、従業員の健康管理や健康増進の取組みについて、特に優良と認められた法人として、国が認定した法人である。サンワは、今後も従業員の健康維持と増進に積極的に取組み、働きやすい職場づくりを目指していく。

※健康経営優良法人認定制度とは、健康経営に取り組む企業等の「見える化」をさらに進めるため、上場企業に限らず、未上場の企業や、医療法人等の法人を「健康経営優良法人」として認定する制度。経済産業省が制度設計を行い、日本健康会議が認定している。



【出所 サンワより提供】

○教育体制

現在は各事業拠点でのOJTの教育と、内定者研修、新入社員研修、管理者研修を定期的に行っているが、今後は、階層別研修を実施し、全社的な従業員の能力向上を目指す。



新入社員研修



定期研修



ザスパへの研修

【出所 サンワ HP より引用】

サンワは、群馬県高山村と新潟県苗場に保養所を所有している。社員であれば誰でも休日等に利用することができる。また、群馬県高山村の施設では、「パワジオ倶楽部・高山」と名付けた研修施設もあり、社内研修等に利用している。パワジオとは、「パワー」と「スタジオ」の造語で、この研修施設を拠点に社員の気力・体力・知力を創造し、発信していこうという意味が込められている。また、社員同士の交流を深めるための親睦会等を実施している。

<「パワジオ倶楽部・高山」施設内と研修風景>



【出所 サンワ HP より引用】

サンワは、会社負担での資格取得奨励や社内勉強会を通じて、業務に必要な資格取得のサポートをしている。

＜サンワの主な資格保有者＞

● 危険物取扱者（乙4）	114名	● コーティング技術（1級、2級）	22名
● 高圧ガス販売主任者（第二種）	61名	● 自動車整備士	46名
● 高圧ガス製造保安責任者（丙種化学）	29名	・ガソリン（2級、3級）	
● 丙種ガス主任技術者	11名	・ジーゼル3級	
● 液化石油ガス設備士	63名	・シャシ3級	
● 管工事施工管理技師	4名	● 食品衛生責任者	8名
● 電気工事士（1種、2種）	7名	● 衛生管理者（1種）	1名
		● 簿記（日商、全商）1,2,3級	13名
		● 社会保険労務士	1名

【出所 サンワ HP より引用】

○「従業員エンゲージメント」調査の実施


「従業員エンゲージメント」調査は、職場の推奨度を数値化したもの。数値が高い企業は、生産性が向上したり、離職率が改善したり、また、自社にマッチした人材を採用できるメリットがあると言われている。

サンワは、2022年に第1回目の調査を実施し、重点項目を抽出し、それぞれの課題ごとに解決のための以下のアクションプランを実施した。なお、2024年2月には第2回目の調査を実施している。

時期	アクションプラン
2023年3月	第一弾 管理職者研修
2023年7月	人事制度説明会
2023年10月	第二弾 管理職者研修 面談有無と満足度アンケート実施

【出所 サンワ社内資料に基づき作成】

(3) DX化推進による顧客の安全性向上

項目	内容
インパクトの種類	社会面においてポジティブインパクトの増大
インパクトカテゴリー	「エネルギー」
影響を与える SDGs の目標	
関連する SDGs ターゲット	7.1
主な取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 顧客のガス使用量をリアルタイムで確認する LPWA（無線技術を活用した集中監視システム）の設置を進めることで顧客のガス利用時の安全性を向上させる。
目標と KPI	<ul style="list-style-type: none"> 2025 年度までに LPWA 設置率を 50%以上とし、「第二号認定 LP ガス販売事業者」の認定を取得する。

サンワは顧客の安全性、利便性向上のため、各種 DX 化の取組みを推進している。この取組みは UNEP FI のインパクトレーダーでは「エネルギー」に該当し、SDGs の 17 目標 169 ターゲットでは「7.1」のゴールに貢献すると考えられる。



OLPWA（無線技術を活用した集中監視システム）の設置率向上

サンワは、品質・顧客満足度の向上や労働時間の短縮を実現するため、積極的に DX 化を進めている。なかでも、LP ガス事業における無線通信技術「LPWA※」を利用した集中監視システムを積極的に導入することを通じて、検針員や配送員の高齢化に伴う人員確保という課題解決や業務効率化を行っている。ホームエネルギー部では 2025 年までに LPWA 設置割合を 50%まで増加させる計画である。これにより、顧客のガス使用量が日々捕捉できるため、配送予測が向上しては配送効率を高めることができるほか、検針作業が不要となることや従業員の宿直が減るなどの効果が見込まれる。また、異常時には瞬時に通報が入るため、顧客の安全性も高めることができる。

このように、サンワでは、以上の取組み等を通じて、更なる業務効率化を図り、ワークライフバランスの充実による企業価値の向上を目指している。

※LPWA とは、Low Power Wide Area の略。低消費電力で長距離のデータ通信を可能とする無線技術。

(4) 事業活動を通じた地域レジリエンスへの貢献

項目	内容
インパクトの種類	社会面においてポジティブインパクトの増大 経済面においてポジティブインパクトの増大
インパクトカテゴリー	「自然災害」、「インフラ」
影響を与える SDGs の目標	 
関連する SDGs ターゲット	9. 1、11. a
主な取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶中核充電所（国が指定する大規模災害時に安定的な LP ガス供給を可能とする充電所）の整備 ▶中核 SS（災害時に警察や消防等の緊急車両への優先給油を行う給油所）の設置 ▶災害対応型 LP ガスバルク供給システム（大規模災害時にライフラインが寸断された状況においても LP ガス供給を安全かつ迅速に行うシステム）等災害対応型商品の販売強化 ▶充電所で従業員に向けた防災訓練を定期実施
目標と KPI	<ul style="list-style-type: none"> ▶中核充電所、中核 SS、住民拠点 SS（自家発電設備を備え、停電時にも継続して地域住民に給油可能なガソリンスタンド）を整備・維持するための 従業員防災訓練を各拠点で年 1 回以上実施する。

サンワは中核充電所、中核 SS の設置、整備や災害対応型商品の販売強化等を通じて地域レジリエンスへの貢献を行っている。

この取組みは UNEP FI のインパクトレーダーでは「自然災害」「インフラ」に該当し、SDGs の 17 目標 169 ターゲットでは「9. 1」「11. a」のゴールに貢献すると考えられる。

○中核充てん所（災害対策）の設置

LP ガスの供給拠点には、輸入基地（一次基地）、二次基地、充てん所があり、それらを所有している主要な輸入事業者と販売事業者には、石油備蓄法によって「供給連携計画」の策定が義務付けられている。供給連携計画は、全国9ブロックの地域単位で作成されており、災害時には計画に基づいて各事業者間で情報共有、設備の共同利用、輸送に係る協力を行うことにより、供給の途絶を防止し、被災地及び避難所等へのLP ガス供給が迅速かつ確実に実施できるようにしている。

充てん所については、全国に約2,200カ所あり、そのうち約340カ所が中核充てん所に指定されている。中核充てん所には、災害時にも自立的に稼働できるようにするため、非常用発電設備、緊急用通信設備、LPG 車等が配備されている。

群馬県内には経済産業省指定の中核充てん所が10カ所ある。サンワは群馬県内4カ所（沼田市、吉岡町、高崎市、邑楽町）に充てん所を配備しており、そのうち2カ所が災害対応型中核充てん所（沼田営業所、邑楽営業所）として認定され、災害時における重要な役割を担っている。



【出所 サンワ HP より引用】

○中核 SS の設置

サンワは、災害対応能力を強化した中核 SS を群馬県内に4カ所（パラダ野中 SS、パラダ前橋インター SS、パラダ安中中央 SS、パラダおうら SS）保有し、災害対応時の重要な拠点の一つとなっている。

この中核 SS は、東日本大震災以降に「石油の備蓄の確保等に関する法律」に基づき指定されたもので、自家発電設備等を備え、災害時に警察や消防等の緊急車両への優先給油を行う給油所である。災害時において可能な限り緊急車両への優先給油を行い、営業状況等について政府に報告する役割を担っている。

加えて、サンワでは住民拠点 SS として8カ所が認定されている。この住民拠点 SS は、自家発電設備を備え、災害時による停電等においても可能な限り継続して被災住民の方々向けに燃料供給を行う SS である。

2016年4月に発生した熊本地震において、一般の避難者・被災者の方々が給油できる拠点を整備する必要性が認識されたことを契機として整備が進められ、2023年8月末時点では、全国約28,000カ所のSSのうち、14,507カ所が住民拠点SSとなっている。なお、住民拠点SSの店名・所在地については資源エネルギー庁HPより確認可能である。

<パラダ前橋インターSS>



【出所 サンワ HP より引用】

○災害対応型商品の販売強化

サンワは、自治体や企業に対して災害用商品の提案・販売を行い、地域レジリエンスの強靱化に向けて貢献している。具体的には、以下の4商品を中心に販売を行うことで今後、災害対応型商品の販売拡充を通じて更なる地域レジリエンスの強靱化に向けて取り組んでいく。

災害対応型LPガスバルク供給システムは、LPガスのバルク貯槽と供給設備（ガスメーター、ガスホース、圧力調整器など）、消費設備（煮炊き釜、暖房機器、発電機など）をセットにしたもので地震や津波など大規模災害により電気や都市ガス等のライフラインが寸断された状況においても、LPガスによるエネルギー供給を安全かつ迅速に行うことを目的として開発されたシステムである。

炊き出しセット「炊き出しステーション」は、同時に50～120人分のご飯と汁物の調理が可能な業務用の炊きだしセット。上記の災害用バルクとセットで導入されることが多く、導入された事業者では、災害時等の支援拠点として利用されている。

LP ガス発電機は、家庭用 LP ガスの配管に接続して使用することができる発電機である。50 kgの容器で約 100 時間の発電が可能で地域単位等での導入が進んでいる。

スマートタンクは、太陽光とバッテリーが内蔵された屋外地上燃料タンクで災害時に電力供給がストップし、ガソリンスタンドが機能しない状況下においても、数日分の燃料確保が可能である。



「災害対応型LPガスバルク供給システム」



「炊き出しステーション」



「LP ガス発電機」

【出所 サンワ HP より引用】

○地域スポーツ振興

サンワは「スポーツの力で地域を元気にしたい」という思いで、J2 リーグに所属するザスパクサツ群馬と 2024 年シーズンのオフィシャルユニフォームパートナー契約を締結している。また、B1 リーグに所属する群馬クレインサンダーズとはサポートパートナー契約を締結している。サンワは、「スポーツの力で地域を元気にしたい」という思いのもと、地元スポーツチームへの協賛等を通じてスポーツ文化を育み、地域の活性化に貢献している。



【出所 ザスパクサツ群馬 HP より引用】

○地方公共団体施設のネーミングライツ取得

サンワは、前橋市内、沼田市内の公共施設のネーミングライツを取得し、より良い施設運営の維持に貢献している。前橋市はサンワの現在の本社所在地であること、沼田市についてはサンワの創業地であることからネーミングライツ取得を通じて地域貢献を行っている。

※ネーミングライツとは、公共施設の名前を付与する命名権と、付帯する諸権利。



広瀬川サンワパーキング（前橋）

サンワ沼田武道館

【出所 サンワ HP より引用】

○寄付活動

サンワでは、各種団体への寄付を通じて地域社会の課題解決にも取り組んでいる。具体的な寄付先としては、群馬県教育委員会、太陽の会、美しいふるさと基金（ぐんま緑のインタープリター協会、粕川フラワーロードの会）等がある。

<粕川フラワーロードの会 植樹風景と集合写真>



【出所 サンワ HP より引用】

○食品の安全衛生管理の徹底

サンワは、2005年に食品分野へ参入し、「モチクリーム」や「タルト」等のスイーツ製造を「スイーツファクトリー高崎」で開始した。2007年には、最新設備の導入と新工場を構え、「モチクリーム」については1日最大12万個まで生産可能な体制を構築している。また、2019年7月に、食品安全システムの国際規格であるFSSC22000※を取得している（同時にISO22000も取得）。本認証は、食品業界のあらゆる組織に向けた食品安全マネジメントの国際規格である。高品質な味と安全性、そして安定的な生産体制を構築し、国内のみならず海外にも販路拡大を目指している。

<サンワ製造のモチクリームとタルト>



【出所 サンワより提供】

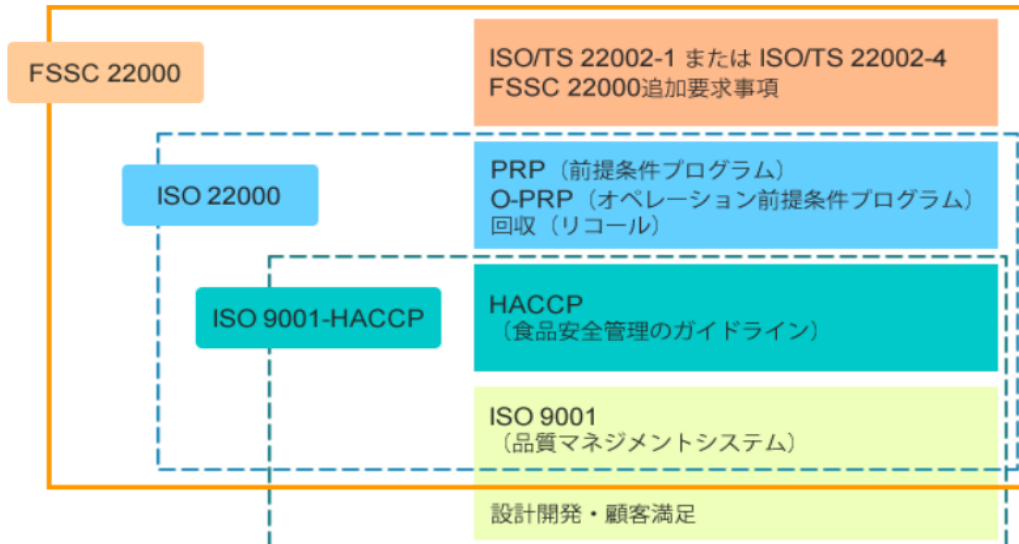
<スイーツファクトリー高崎>



【出所 サンワより提供】

※FSSC22000 は ISO22000 をベースとした、より確実な食品安全管理を実践するための国際規格のマネジメントシステム。ISO22000 に比べて要求事項がより具体的な安全衛生管理の手法が追加されている。

<FSSC22000 の位置付け>



【出所 一般財団法人日本品質保証機構 HP より引用】

6. 事業活動領域におけるインパクトニーズとの関連性

サンワの事業活動を展開する地域における SDGs のニーズとの整合性を確認するため、持続可能な開発ソリューションネットワーク（SDSN）が「持続可能なレポート（Sustainable Development Report）」内で公表する各国の SDGs ダッシュボードでインパクトニーズを確認する。

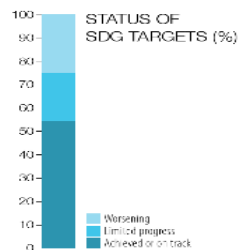
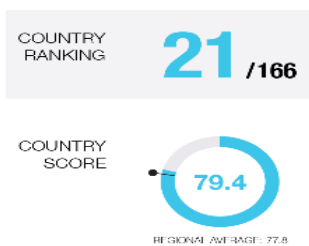
サンワの事業活動領域は日本国内であるため、日本のインパクトニーズを対象とした。

SDGs のゴール別の進捗状況の確認方法として、緑色のゴールは達成しており、黄色、オレンジ色、赤色の順で課題が大きいことを示している。今回、特定したインパクトと関連付けられる SDGs のゴールは「5、8、7、9、11、13」であり、多くのゴールが黄色、オレンジ色、または赤色に該当している。したがって、サンワのインパクトは国内ニーズと整合していると考えられる。

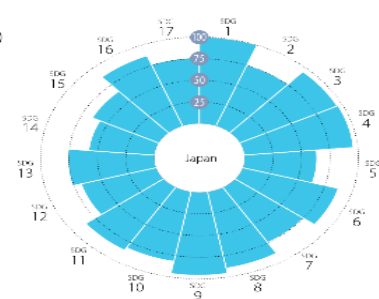
JAPAN

OECD Countries

OVERALL PERFORMANCE



AVERAGE PERFORMANCE BY SDG



SDG DASHBOARDS AND TRENDS



達成済	↑	2030年までの目標達成に向けて順調なスコアが増加している/目標達成値を超えている
課題が残る	↗	適度に改善している。2030年までに目標達成するために必要なペースは下回っているが、必要なペースの50%は超えている
重大な課題がある	→	停滞している。2030年までに目標達成するために必要なペースの50%を下回っている。
深刻な課題がある	↓	スコアが減少している。取組みが悪い方向に向かっている
データなし	●	データなし

【出所 SDSN レポートより引用】

7. 群馬銀行との方向性

群馬銀行グループは、2019年2月に「群馬銀行グループSDGs宣言」を制定し、事業活動を通じた社会・環境課題等への取組みを進めている。

本評価書で特定したサンワのインパクトは、群馬銀行グループSDGs宣言の重要課題と全体的に整合的である。とりわけ、重点課題の「2. 地球環境の保全と創造」「3. 多様な人財の活躍推進」と整合している。以上より群馬銀行は、本件の取組みがSDGsの達成および貢献に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることにつながることを目指している。



群馬銀行グループSDGs宣言 (GB Sustainability Policy 2030)

私たちは、地域社会の発展を常に考えた事業活動の推進を通じて、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献し、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努めてまいります。



重点課題	取組方針	主な取組み
地域経済の持続的発展	地域の事業者の皆さまの成長支援や、地域活性化に向けた取組みを充実させるとともに、お客さまの多様なニーズに応じた金融サービスの提供により、地域経済の持続的な発展をサポートします。次世代の担い手を育成するため、地域の皆さまの金融リテラシー向上に向けた金融経済教育の充実や、持続可能なインフラ構築に向けた地域産業のイノベーション支援に取組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ●創業支援の充実 ●事業承継課題への網羅的な取組み ●資産形成や資産承継等に資する金融サービスの提供 ●高校や大学等での金融経済教育講義の実施 ●PFI等の支援による財政・インフラの課題解決 <div style="text-align: center;">  </div>
地球環境の保全と創造	環境保全や美しい環境の創造に取組むお客さまの支援や、私たちの事業における環境負荷の低減に努めるとともに、気候変動対策の充実に取組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ●再生可能エネルギー向け融資や省エネローンの取扱い ●再生可能エネルギー開発支援に向けたファンド創設 ●「温室効果ガス排出量 2030年度ネットゼロ」の目標設定 ●群馬銀行環境財団を通じた環境保全活動支援 <div style="text-align: center;">  </div>
多様な人材の活躍推進	女性や若年層、シニア層などすべての職員が生き生きと活躍できる職場づくりに向けて、役職員の多様性を高め、その活躍に向けた育成や柔軟な働き方の実現に取組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ●「L-NEXT」（女性活躍促進チーム）など女性活躍推進に向けた取組み ●柔軟な働き方の実現に向けた制度・環境整備 <div style="text-align: center;">  </div>
パートナーシップの推進	地方公共団体や法人、個人のお客さまなどとのパートナーシップにより、地域全体で持続可能な社会の実現に向けて取組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ●ぐんざんSDGs私募債による啓蒙とSDGsに資する活動支援 ●地方公共団体等との連携による地域全体でのSDGs推進 <div style="text-align: center;">  </div>


※ **NEW**：2022年4月、新たに加えたSDGs3目標。今後もSDGs達成に向けた取組みを加速させていくなかで見直しを行っていきたいと考えます。

【出所 群馬銀行レポート2022 統合報告書より引用】



8. KPI を設定したインパクトの種類、SDGs 貢献分類、影響を及ぼす範囲

サンワの事業活動は、SDGs の 17 のゴールと 169 のターゲットに以下のように関連している。


■サンワ GX ビジョンに基づくカーボンニュートラルの実現

ゴール	ターゲット	内容
	13.3	気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。



■ワークライフバランスの充実による企業価値向上

ゴール	ターゲット	内容
	5.5	政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。
	8.2	高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。
	8.5	2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働賃金を達成する。

■DX 化推進による顧客の安全性向上

ゴール	ターゲット	内容
	7.1	2030年までに、安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。

■ 事業活動を通じた地域レジリエンスへの貢献

ゴール	ターゲット	内容
	9.1	全ての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する。
	11. a	各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する。

9. インパクトのモニタリング

（1）サンワにおけるインパクトの管理体制

サンワでは、サステナビリティ推進室を中心に推進会議を通じて自社業務の棚卸を行い、本 PIF におけるインパクトの特定並びに KPI の策定を行った。

（2）群馬銀行によるモニタリング

本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、サンワと群馬銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、群馬銀行が現時点で入手可能な公開情報に加え、サンワから提供された情報や同社への事業に関するヒアリングを通じて収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブ要素の成果およびネガティブ要素の抑制等を保証するものではありません。
2. 群馬銀行が本評価を作成するために活用した情報は、群馬銀行がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。群馬銀行は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証するものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は群馬銀行に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、翻案等を含む）は禁止されています。